



「誰か」のことじゃない 12月4日～10日は人権週間です

すべての人間が人間として尊重され、自由であり、平等であり、差別されなければならないことを定めた「世界人権宣言」。この宣言は1948年12月10日に国際連合(国連)で採択され、これによって「人間は生まれながらに自由であり、尊厳と権利について平等である」とは国際社会共通のルールとなりました。

宣言の採択後、国連は12月10日を「世界人権デー」と定め、日本では12月4日から10日までの1週間を「人権週間」としています。この期間中、日本の各地において“人権は私たちが人間らしく生きるための権利であり、すべての基本ルール”であることを周知する活動が重点的に行われています。しかし、いまだに、いじめや虐待、外国人や障害のある人、同和問題、ハンセン病元患者とその家族などに対する偏見や差別、企業等における各種ハラスメント、LGBTや性的マイノリティに対する差別や偏見など様々な人権問題が存在しています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、感染者や医療従事者、またこれらの方々の家族などに対する偏見や差別といった様々な人権問題が発生するとともに、SNS上で他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、あるいは差別を助長するような情報を発信したりするといったインターネット上の人権侵害も深刻な問題となっています。

熊本市のホームページで次のような記事を目にしました。

【新型コロナウイルス】保護者のみなさまと一緒に考えたいこと

新型コロナウイルスに感染したある方が、退院後こんなことを語っておられました。

入院している間、ずっと不安と恐怖で心が押しつぶされそうだった、それを救ってくれたのは、「病気に負けるなよ、絶対よくなれ。」「また一緒においしいもの食べに行こう。」という知り合いからのメッセージと「あなたを必ず助けます。」と言って献身的に治療にあたってくれた医療スタッフの支えだった、と。

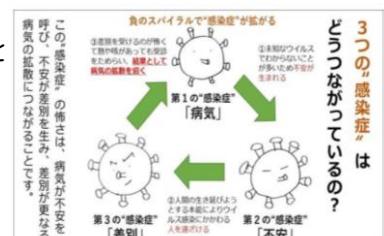
世の中には、感染し苦しんでいる方に対し、心ない言葉を発したり、噂を流したりする人がいるのは確かです。しかし一方で、感染した人やその家族を支え励まし、よくなることを願っている人がたくさんいるのも事実です。

「だれだろうか、かかったのは。」より、「かかった人はきついだろうね。」

「ほんと迷惑だ。」より、「お互い様だから。」という言葉が聞かれる世の中だと、どんなに安心でしょう。

子どもたちは大人の背中をとてもよく見ています。大人が不安でいるとき、それを感じ取って不安になります。逆に、親の笑顔は子の元気を生み、子の元気は親の笑顔を引き出します。こうした親子のプラスのエネルギーの循環が、新型コロナウイルスに負けない日常を作り出すのではないかと思います。

日本、そして世界各地で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。第3波とも言われています。「いつまで続くのか...」という不安な気持ちも拡がっているのも事実です。この“感染症”的怖さは、病気が不安を呼び、不安が病気を生み、差別が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながることだとされています。



子どもたちも、日々不安を抱えながら過ごしていると思います。このような時だからこそ、私たち大人の行動が、子どもたちの見本にならなければなりません。誰もが安心して、幸せに暮らしていくために、見知らぬ「誰か」のことではなく、自分の身近に起きている問題として人権について考えることが必要です。

20世紀、人類は二度に渡る世界大戦を経験しました。その経験と反省から、「平和のないところに人権は存在しない」、また「人権のないところに平和は存在しない」ということを学びました。そこから、「21世紀は『人権の世紀』」という世界共通の合言葉が生まれ、人権の尊重と平和の実現が世界中の願いとなっています。「21世紀は『人権の世紀』」と言われ20年が経過しました。全世界を巻き込む新型コロナウイルスの感染拡大という社会情勢ですが、あらためて、この機会に、21世紀を「真の人権の世紀」とするために、私たち一人ひとりが人権について学び、意識を高め、互いの人権が尊重される社会をみんなで築いていこうと思う「心」が大切だと思います。

魔法のことば「あいさつ」 その2

ある日の西学舎での出来事です。「おはようございます。やったあ、校長先生に勝った!」という声が聞こえきました。「どういうことですか。」と聞くと、にっこりと笑って「校長先生より先に、あいさつするんです。」と答えてくれました。心温まるひと時でした。これからも自ら挨拶をする子どもたちを育てていきたいと思います。

東山泉小中学校では、12月の月間目標を「「あいさつ」をしよう。そして、やさしく声をかけ合おう。(時間・学習・きまり・あそび)」として取り組みます。

6年 研修旅行

11月11日～12日に、淡路島方面に、夢創（総合的な学習の時間）の時間を中心とした探究学習の一環として、研修旅行を実施しました。2日間とも晴天に恵まれました。

北淡震災記念公園では、阪神・淡路大震災で被災された語りべの方から、当時の様子、地域のコミュニケーションの大切さ、地震に対する備え、命の大切さなど、体験をもとにしたお話を聞かせていただき、これから生き方について、深く考える時間となりました。

結団式では実行委員長より、「研修旅行を実施するにあたり、自分たちの見ていないところで支えてくれた人への感謝の気持ちをもって、研修旅行にのぞみましょう。」という挨拶がありました。子どもたち一人ひとりが、感謝の気持ちを持ちながら、2日間を過ごし、個人、そして集団として成長したと思います。



9年 合唱交流会

11月10日、9年生の合唱交流会を行いました。学年みんなで校歌を歌い、それぞれのクラス合唱を披露しました。2組は「手紙一括啓十五の君へ」を、3組は「虹」を、4組は「証」を歌いました。どのクラスも、心をひとつにして、素晴らしいハーモニーを響かせてくれました。

マスクをつけながらの合唱、“コンクール”ではなく“交流会”という形での発表、今までとはちがう状況の中で、「今できること」「今だからこそできること」に、一生懸命、そして全力で、9年生は取り組んでくれました。義務教育9年間で成長した姿を、合唱を通して、立派に表現し、感動を与えてくれました。東山泉小中学校の誇りです。

応援してくださった保護者のみなさま、ありがとうございました。

